

# 札幌市産業振興ビジョンの全体構成(案)

## 第1章 ビジョンの基本的な考え方

### 背景と必要性

- ・経済・社会環境が大きく変化し、全国的に景気が落ち込み中、北海道・札幌市経済も低迷しており、大変厳しい状況が続いている
- ・本市の経済は、人口の増加に比例して成長してきたが、人口減少時代に突入しようとしている。
- ・そのような変化に対応し、足腰の強い経済基盤を確立する必要がある。
- ・本市経済を取り巻く環境の変化や実体経済の動きを的確に捉え、中長期的な視点から、本市が目指すべき方向や、行政の果たすべき役割を明確にするためのビジョンを策定する。

### ビジョンの位置づけ

- ・「第4次札幌市長期総合計画」の方向性を踏まえた産業振興分野の今後の展開を示したものとす。
- ・札幌市が策定している他分野の計画等との整合性をとり、連携を図って産業振興に結びつける。
- ・札幌市中小企業振興条例に基づく総合的な施策とする。
- ・本ビジョンに基づき、各年度の予算における具体的事業を展開する

### 基本方針

- ・札幌広域都市圏の中の札幌として取り組む
- ・北海道経済の牽引役としての役割を果たす
- ・中小企業等の創意工夫と自主的な努力を尊重する
- ・産学官連携を促進する
- ・国や北海道等関係機関と連携を図る

### 期間

平成23年度～32年度の10年間

## 第2章 札幌市産業の現状・課題

### 現状分析

1. 経済成長の経緯
2. 人口動向
3. 産業特性
4. 都市機能

### 課題

1. 人口減少と少子高齢化の進展
2. 人材の流出と雇用情勢の悪化
3. 製造業をはじめとしたものづくり産業の脆弱性
4. 都市機能の強みの活用不足

## 第3章 札幌市産業の目指す姿

札幌の経済を支えている中小企業が時代の変化に対応しながら、活発な事業展開を通じて、北海道経済を活性化させる札幌広域都市圏を中心に、道内の産業間の結びつきが強まり、世界に躍進する企業が活躍する国内外から人や企業が集まり、活発な交流活動が生まれることにより経済活動が高まる積雪寒冷地といった特性や、北海道が持つ資源を活かした事業活動が展開されるとともに、新たな付加価値が創造される市民生活に直結した産業が振興することで、地域に賑わいを生み出し、暮らしの安全と安心を確保するとともに、豊かな暮らしを実現する

### 産業振興の最終目的

1. 雇用の場を確保・創出
2. 企業、就業者の収入増加
3. 税収の増加による市民サービス向上

## 第4章 施策展開に向けた視点

### 1. 道内需要の拡大 (北海道内経済循環の形成・強化)

- ・道内企業の取引拡大
- ・道産品の域内消費促進

### 2. 道外需要の創出 (北海道における外需型産業の育成)

- ・道外市場の開拓
- ・観光産業を中心とした交流人口の増加による需要拡大

## 第5章 施策展開に当たって

### 1. 施策展開の方向性

#### (1) 社会情勢の変化に対応する

- ・人口減少(市場縮小)への対応
- ・少子高齢化への対応
- ・グローバル化への対応
- ・地球環境問題への対応

#### (2) 北海道・札幌の強み・可能性を活かす

- ～地域の資源、特長を活かす～
- ・豊富な北海道の食資源
- ・北海道・札幌の魅力を活かした観光
- ・プロスポーツや雪国の特性を活かしたスポーツ
- ・世界に誇れる文化芸術
- ・積雪寒冷地技術など、教育機関や研究機関等の知の集積
- ・道産素材を活用した機能性食品や化粧品を始めとするバイオテクノロジー
- ・人材、企業の集積や冷涼な気候など環境負荷軽減型の地域特性を活かしたIT
- ・札幌の都市機能と北海道の自然の魅力を活かしたコンテンツ

#### (3) 中小企業の経営基盤強化と創業の促進

- ・人材育成
- ・人材活用
- ・融資・金融相談
- ・経営、創業アドバイス

### 2. 地域経済を牽引するエンジン

- ・北海道の一次産品を活かした「食」
- ・他産業への経済波及効果が高い「ものづくり」
- ・北海道、札幌の特性を活かした「観光」

## 第6章 ビジョンの運用体制

ビジョン策定後は、中小企業振興審議会をはじめ、市内中小企業者等の意見を踏まえながら、進行管理を行っていく。ビジョンは、10年間の中長期的な計画であるが、この間に大きな経済の構造変化が生じた場合は、柔軟にビジョンの内容を改訂する。その際は、札幌市中小企業振興審議会のほか、中小企業者等の意見を反映させて見直しを行う。